

令和3年度茨城県立図書館 図書館評価（指標）実績について

1 図書館評価の概要

図書館の運営状況については、図書館法第7条の3及び第7条の4において「運営の状況に関する評価等、運営の状況に関する情報の提供」について規定されており、平成13年7月18日付文部科学省告示第132号「公立図書館の設置及び運営上の望ましい基準」及び平成24年12月19日文部科学省告示第172号「図書館の設置及び運営上の望ましい基準」において、公立図書館は図書館サービスその他図書館の運営に関する適切な指標を選定し、これらに係る目標を設定して、各年度の目標達成状況に関し、自ら点検・評価を行うように努めることと規定されています。

当館においては、平成15年度から図書館評価を実施しており、3年ごとに評価指標と数値目標を策定しています。令和3年度は令和元年度から令和3年度までの3年間を目標として策定した評価の3年目です。

2 茨城県立図書館が策定した指標の内訳

	項目	指標
1	県民サービスに必要な資料の確保	①所蔵資料冊数（個人貸出用図書）
		②所蔵資料点数（個人貸出用視聴覚資料）
2	県域全体へのサービス	①遠隔地貸出サービス参加市町村数
3	茨城コレクションの充実とそれを用いたサービス（郷土資料）	①郷土資料蔵書数
		②レファレンスデータベース郷土資料入力件数
4	図書館の利用に障害のある方へのサービス	①大活字本の所蔵数
		②朗読等CDの所蔵数
		③対面朗読室利用回数
5	課題解決支援・利用者の情報活用能力の向上	①地域支援（ビジネス支援）の講座等参加定員に対する参加者の割合
		②地域支援に関するパスファインダーまたは「調べ方マニュアル」作成（更新含）数
		③レファレンスデータベース入力件数
6	利用満足度	①アンケート調査による満足度
7	市町村立図書館への支援	①相互貸借貸出点数
		②県立図書館関与研修にかかる対象館数に対する参加館数の割合
8	図書館未設置市町村への支援	①図書館未設置市町村への相互貸借貸出点数
		②団体貸出用図書の貸出点数
		③読書会用図書の貸出点数
9	市町村図書館からの信頼度	①アンケート調査による信頼度
10	職員の研修	①研修の実施回数

※ アンケート調査

アンケート調査については、令和4年5月に実施しました。

3 令和3年度の実績について

(1) 令和3年度の状況

令和3年度は新型コロナウイルスのまん延防止や館内カフェの設置工事に伴う休館等のため、例年と比較し2/3程度の開館日数となっています。(平成28年度から30年度の平均開館日数294日、令和3年度の開館日数177日)。

新型コロナウイルスの影響がある指標及び開館日数に連動する指標(対面朗読室の利用回数、レファレンスデータベース入力件数等)について、数値が著しく伸びない結果になりました。

(2) 目標達成率について

	R3	R2	比較
令和3年度図書館評価についての指標の項目数	19	17	+2
達成率100%以上の項目数	5	5	—
99.9%～80%の項目数	6	4	+2
80%未満の項目数	8	8	—

(3) 達成率80%未満の8項目は以下のとおり

	指標	目標値	実績値	達成率
1	レファレンスデータベース郷土資料入力件数	100	0	0%
2	対面朗読室利用回数	60	8	13.3%
3	地域支援に関するパスファインダーまたは「調べ方マニュアル」作成(更新含)数	37	1	2.7%
4	レファレンスデータベース入力件数	200	0	0%
5	相互貸借貸出点数	8,000	6,282	78.5%
6	県立図書館関与研修にかかる対象館数に対する参加館数の割合	60	41	68.3%
7	団体貸出用図書の貸出点数	30,000	12,622	42.2%
8	読書会用図書の貸出点数	800	311	38.9%

(4) 数値目標の達成率が80%未満の要因について

	指標	要因
1	レファレンスデータベース郷土資料入力件数	・カフェ工事・感染拡大防止休館中はレファレンス受付・回答を停止し、開館後に再開したが、休館中と開館後に届いたものを合わせて常に約30件の未回答レファレンスがあり、回答業務を優先したため。
2	対面朗読室利用回数	・カフェ開設に係る休館(令和3年3月23日～7月16日)及びコロナ休館(令和3年8月18日～令和3年9月19日)による減少。

3	地域支援に関するパスファインダーまたは「調べ方マニュアル」作成（更新含）数	上記1の要因と同様
4	レファレンスデータベース入力件数	上記1の要因と同様
5	相互貸借貸出点数	<ul style="list-style-type: none"> ・カフェ開設に係る休館（令和3年7月1日～7月16日）及びコロナ休館（令和3年8月18日～令和3年9月19日）による減少。 ・ぶっくびん（遠隔地貸出制度）が年間稼働したことに伴う減少。
6	県立図書館関与研修にかかる対象館数に対する参加館数の割合	<ul style="list-style-type: none"> ・各市町村立図書館は職員数が少ない館も多く、全ての研修会に参加をすることが難しい。そのため研修会を絞って参加しており、対象館数に対する参加館数の割合が低くなっている。
7	団体貸出用図書の貸出点数	<ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナウイルス感染症拡大防止による読書の時間等の中止により、学校・施設等の利用が大きく減少したほか、大口貸出箇所からの返却があったため。
8	読書会用図書の貸出点数	<ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナウイルス感染症拡大防止による学校等での読み聞かせ等の中止や読書団体の活動自体の中止による。

(5) 目標達成率の評価

令和3年度の評価については、達成率100%以上となった項目が5項目、80%以上となりほぼ達成した項目が6項目、達成率80%未満で改善を必要とする項目が8項目となりました。

また、令和3年度は令和2年度と比較し、改善が図られた項目が8項目、横ばいの項目が4項目、前年実績を下回った項目が7項目という結果となっています。しかし、改善が図られた項目も目標値には大きく及ばないなど課題が見られる結果となりました。

その要因としては、新型コロナウイルスへの対応に引き続き多くのマンパワーと時間を費やす必要があったほか、館内カフェ整備に伴う準備や開館後にエントランスのレイアウトが大きく変わったことから、オペレーションの確立に多くの労力を割かざるを得なかったことがあります。さらに、開館後に通常時を大幅に上回るレファレンスの申し込みがあり、さらには外部読書団体の活動も令和2年度同様に著しく抑制されていました。

しかしながら、コロナ対策については令和2年度に比べ知見と経験を積んでいたこと、カフェ整備後の開館状況は、徐々に通常ベースを探る形になっていたことから、もう少し積極的な取組ができなかったか検討する必要があると考えています。

今後は、改めて運営面での目標及び指標を明確にするとともに、全職員が目標を意識しながら図書館運営をしまります。